

◎ホクナリンテープ [外], ▼ホクナリン錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 ソロブテロール (内服: 塩酸塩) tulobuterol (hydrochloride) 【分類】 気管支拡張剤 [β2 刺激剤]

【単位】 ◎2mg・▼0.5mg・▼1mg/枚, ▼1mg/錠

【常用量】 ■テープ: 成人 2mg, 0.5~3 才は 0.5mg, 3~8 才は 1mg, 9 才以上は 2mg

■内服: 1 回 1mg, 1 日 2 回

【用法】 テープ: 1 日 1 回、胸部・背部・上腕部に貼付。Tmax が 8~12hr なので、喘息に使用する場合発作の起こりやすい 8~12hr 前 (通常夕食後程度) に貼付するのが効果的。1 枚を切断して用量を調節してもよい

【透析患者への投与方法】 尿中未変化体排泄率が低いいため減量の必要なし (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 減量の必要なし (5)

【特徴】 β2 刺激薬の貼付剤。一般に呼吸機能にはサーカディアンリズムがあり 1 日のうち深夜から早朝にかけて低下するため、夕食後~寝る前に貼付することでモーニングディップと呼ばれる早朝の呼吸機能の低下を抑制することができる。

【主な副作用・毒性】 振せん、心悸亢進、貼付部位の掻痒、CK 上昇、低 K 血症など

【F】 皮膚より直接吸収されるため吸収率と等しいと考えられる。テープ: 胸部 86.1%, 背部 87.2%, 上腕部 87.9%, 剥離後のパッチに残存している薬物量から吸収量は単回試験で平均 82~90%、反復投与試験で平均 82~85% (1)

【tmax】 テープ: 11.8hr, 内服: 3.19hr (1) 【Cmax】 テープ: 胸部・背部・上腕部でもかわりなく 1.35ng/mL (2mg 貼付時) (1)

【代謝】 3-OH 体、4-OH 体、5-OH 体とその抱合体に代謝 (1) 4-OH 体は未変化体より強い気管支拡張作用あり (1)

【排泄】 テープを 24 時間単回貼付後 3 日目までの尿中未変化体排泄率 6% (Uematsu T, et al: Clin Pharmacol 44 : 361-4,1993) 尿中回収率 41.2% [po, 32hr まで] (1)

【t1/2】 5.9~9.5hr (1) 錠剤: 3~4hr (1)

【蛋白結合率】 28.1% (1)

【Vd】 データなし (1) おそらく組織移行性は高い (5)

【MW】 227.73 (base)

【透析性】 データなし (1)

【TDM のポイント】 TDM の対象にはならない 【O/W 係数】 6.66 [1-オクタノール/buffer, pH7.4] (1)

【更新日】 20170119

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。